

新聞読んだ考えた

2026年7月2日付17面／原爆の悲惨さ伝える 広島・長崎に投下された原爆による被害を伝える「ヒロシマ・ナガサキを語り継ぐ『原爆と人間』展」が7月に行われた。写真パネルやイラストなど、被爆の悲惨さを伝える55点が展示された。

八戸学院光星高校1年

すぎもと こう
杉本 昊優さん

戦争の悲惨さ語り継ぐ



81年前に投下された原爆について、その悲惨さを伝えるために行動できている人は少ないのではないかと。戦争を経験した人は年々減っており、若い世代は身近な人から教わる機会も少ないだろう。

記事のように、原爆の悲惨さを伝える展示が行われることは、たくさんの人にとって考えさせられる良いきっかけになる

「新聞読んだ考えた」投稿規定

- | | |
|------|---|
| 対象 | 小学生～大学生 |
| 送付物 | ①選んだ記事の要約（100字以内）
②感想文（400字以内）
③顔写真 ④応募者情報
※専用応募用紙あり |
| 応募方法 | 郵送、メール、投稿フォームのいずれか |
| 謝礼 | 記事ラミネート、図書カード1000円 |

応募・問い合わせ先

東奥日報社
販売局NIE・NIB推進部
〒030-0180
青森市第二問屋町3-1-89
電話 017-739-1106（平日9～17時）



メール nie3189@toonippo.co.jp

※投稿後、担当者が感想文の内容を確認して連絡します。また、趣旨を変えないように記事の修正をする場合があります

と思う。
私がこの記事で目に留まったのは、地元の高校生も展示に関わっているという部分だ。高校生が戦争を身近なこととしてと

らえることは容易ではないが、このような活動をしている同世代もいる。
人の体験を上手に伝えることは難しいが、自分にもできることはたくさんあるということ。この記事から学んだ。戦争を繰り返さないために自分も行動に移していくことが大切だと感じた。